

令和2年度 施政方針 価値ある飯南暮らしへ

令和2年度は、「第2次飯南町総合振興計画の後期基本計画」「第2期総合戦略」がスタートします。この計画は、副題を「飯南町 農村価値創生～価値ある飯南暮らしへ～」とし、外からの視点を取り入れながら、本町の資源や暮らしの知恵を生かし、都市と農村が共生する社会を築くことにより、本町に暮らす住民の生活満足度・幸福度を向上させ、一定の人口を保とうとするものです。「価値ある飯南暮らし」の実現に向けて、行政のみならず、集落ごとの目標を定めながら、住民の皆さんと一緒に取り組んでいきます。



詳しくはこちらをご覧ください。
令和2年第2回飯南町議会定例会
町長所信表明及び提案理由説明要旨



人と地域のつながりをつくる 自治・協働

- 集落実態調査を引き続き実施します。調査で「見える化」された人口減少や高齢化などの課題解決に向けた取り組みを支援し、集落の維持・活性化を図ります。
- 協働にあたって「人材育成アクションプラン」に基づいた行政職員の資質向上と「i座談会」など住民と行政の対話の場づくりを進めます。
- 来島拠点複合施設は、公民館や図書館、学習支援館などが一体となった複合的な施設として本年9月末の完成を目指します。

子育てしやすい環境をつくる 教育・文化・子育て

- 出産祝金の対象を第1子からに拡充し、オムツなどの子ども用品を2歳になるまで支給します。※詳細は6ページに記載
- 保育料完全無償化も継続しながら、高校生の医療費無償化を検討します。
- 保健福祉センターを「全世代型の総合相談窓口」と位置付け、幅広く相談に応じ、支援する体制を整えます。子ども若者支援や、高齢者相談窓口の地域包括支援センターと併せて、新たに「子育て世代包括支援センター」を整備し、産前産後のサポートを含む母子保健サービスを、子育て支援サービスを一体的に展開します。
- 保小中高一貫教育の特色を活かし、保育所からの学びの記録簿「キャリア・パスポート」を導入し、豊かな地域資源を活用した「生命地域教育」により、子どもたちの主体性や創造力、実行力、発信力を伸ばし、社会を生き抜く力を育成します。

いきいき暮らせる 産業

- 中山間直接支払制度第5期対策に併せて、農家や法人が農業を維持・発展させるため



- 園芸作物の生産拡大と新規就農者の支援のため、新たに14棟のリースハウスを整備します。また、ほ場整備による高収益作物の導入を目指し、県推奨6品目のひとつ「白ネギ」の実証栽培を実施します。
- 繁殖雌牛の改良を促進するための「ゲノミック評価」の実施を支援します。
- 町内の後継者不在事業所の「事業承継」を支援するため、新たに推進員を配置し、相談・指導体制の充実を図ります。
- 担い手不足を解消するため「特定地域づくり事業協同組合」の設立に向けて準備を進めます。

- 赤来地域に続き頓原地域の光ケーブルの整備が完了し、町内全域の高速情報通信網が整いました。今後、教育・医療・介護などへの活用や、起業に向けた働きかけを行います。
- 現在運行しているバス路線の維持とデマンドバスの運行により、利便性の向上に取り組んでいます。
- 雲南市・奥出雲町との広域連携により、令和14年度稼働予定のゴミ処理施設の整備を検討します。

暮らしに安心をつくる 保健・医療・介護・福祉

- 自治組織の健康づくりに向けた活動を支援します。また町内企業の健康経営、従業員健康づくりを支援します。
- 飯南病院と診療所は、島根県や島根大学、非常勤の先生方の協力により、現在の医療体制を維持します。また、医師・看護師・歯科衛生士・介護福祉士など医療福祉従事者を目指す学生を支援します。
- 運転免許を持たない方の外出をしやすいように、タク

生命地域を守る 自然環境

- 県自然環境保全地域（女鳥山 赤名湿地性植物群落や大万木山・琴引山などの森林、赤名川・頓原川などの河川を保全する住民団体の活動を支援します。また、自然環境保全活動に取り組む人材の確保と育成に取り組めます。